

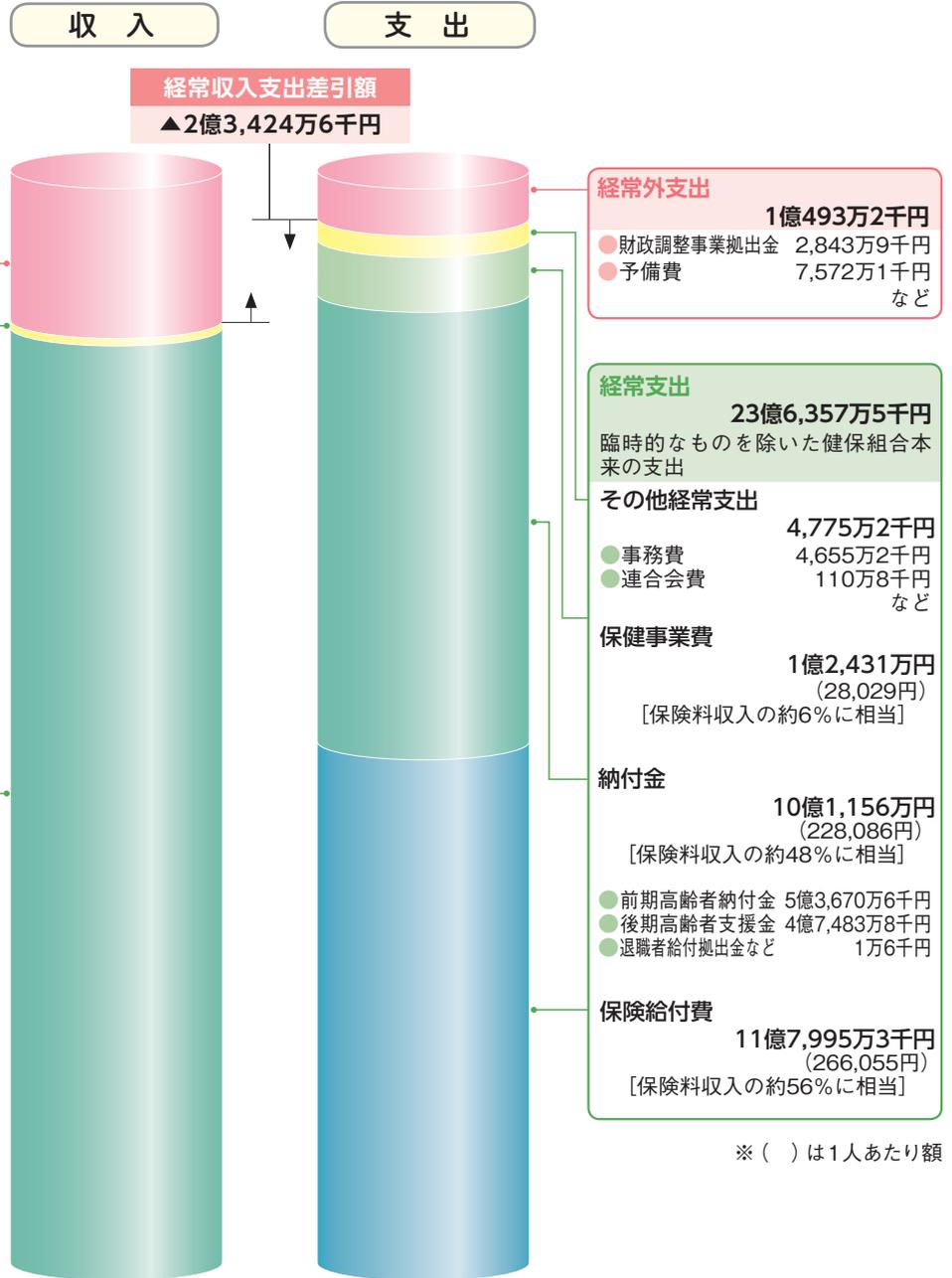
# 令和4年度 予算が決まりました

保険料率は健康保険・介護保険ともに据え置き

予算の基礎数値	
被 保 険 者 数	4,435人
平均標準報酬月額	332,692円
保 険 料 率	98/1000
事 業 主	49/1000
被 保 険 者	49/1000

経常外収入	
3億3,917万8千円	
● 調整保険料収入	2,843万8千円
● 別途積立金操入	2億9,000万円 など

経常収入	
21億2,932万9千円	
臨時的なものを除いた健保組合本来の収入	
● 国庫負担金収入	58万4千円
● 雑収入	1,529万5千円 など
保険料収入	
21億1,302万9千円 (476,444円)	



## 介護保険

予算の基礎数値	
徴収対象第2号被保険者数	2,089人
平均標準報酬月額	354,109円
保 険 料 率	18/1000
事 業 主	9/1000
被 保 険 者	9/1000

収入	
科目	金額
介護保険収入	2億785万円
繰越金	0円
操入金	700万円
雑収入	3千円
国庫補助金受入	0円
<b>収入合計</b>	<b>2億1,485万3千円</b>

支出	
科目	金額
介護納付金	2億751万7千円
介護保険料還付金	1千円
積立金	0円
雑支出	1千円
予備費	733万4千円
<b>支出合計</b>	<b>2億1,485万3千円</b>

## 健康保険

### 健保組合を取り巻く状況

#### ▶ 「2022年危機」が到来し、今後さらに高齢化が加速する見通し

わが国の高齢化は、世界に類を見ないスピードで進行しており、人口のボリュームが多い団塊の世代が2022年から後期高齢者となり始めることで、健保組合の納付金負担が急増する「2022年危機」がついに到来します。

さらに2025年には、団塊の世代がすべて75歳以上となり、健保組合にとって厳しい状況が続く見込みです。高齢者が急増する一方で、国民皆保険制度の支え手である現役世代の人

口は大幅な減少が続き、健保組合の財政悪化が危惧されています。現役世代に偏った負担を是正し、だれもが安心して医療を受けられる全世代型の社会保障制度を構築していく必要があります。

当健保組合ではこのような社会の方向性に適切に対応しつつ、みなさまの健康管理・健康づくりを支える事業を推進してまいります。

### 令和4年度予算の状況

#### ▶ 経常収支は2億3,424万6千円の大幅な赤字

主な収入である保険料については、前年度比223万3千円減を見込んでいます。

また、支出においては医療費などの保険給付費は、前年度比3,419万3千円減を見込んでいます。高齢者医療制度にかかる納付金等は、「前期高齢者納付金」が前年度比1,088万6千円減、「後期高齢者支援金」が前年度比465万円増を見込んでおり、退職者給付拠出金等を含めたトータルで前年度比623万8千円減となる見込みです。

令和4年度は、別途積立金繰入2億9,000万円などを充当して収支のバランスを図りましたが、

経常収支では2億3,424万6千円の大幅な赤字となりました。

令和4年度は第2期データヘルス計画が5年目となります。引き続き、効果的な保健事業を展開してみなさまの健康保持増進を積極的に支援させていただきます。みなさまにおかれましても保健事業をご利用いただくとともに日頃から健康づくりに励まれ、また、受診の際には、かかりつけ医を持つなど適正に受診していただき、ジェネリック医薬品の積極的な利用、そして日頃の健康管理に留意して、医療費の節減にご協力いただきますようお願いいたします。

## 介護保険

### 令和4年度予算の状況

#### ▶ 介護保険料率は1.8%で据え置き

介護納付金の計算方法が、加入者数をもとに計算する「加入者割」から加入者の総報酬額をもとに計算する「総報酬割」に平成28年度から段階的に移行し、令和2年度から全面「総報酬割」となりました。

単年度での収支均衡を図るため、令和元年度において介護保険料率を18/1000に引き上げたところですが、令和4年度においても単年度での収支均衡が図れることから、介護保険料率についても据え置くこととしました。

先の組合会において、当健保組合の令和4年度予算と事業計画が可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。